

A—25 食品のテクスチャーの測定に関する研究（第2報）

—静的粘稠性測定器によるテクスチャーの測定—

京都女大家政 ○岡部 巍
山下 路子

1. 最近テクスチュロメーターなどによる各種食品のテクスチャーの測定が盛んに行なわれるようになってきたが、静的な粘稠性測定器による場合、似かよった食品群については、それぞれに適する測定器によって検討されている程度で、広範囲の食品についてテクスチャーの測定が行なわれていることは殆んどない。そこで演者らは前報（第32回関西支部研究発表会）に於いて発表した自作の固形食品用の粘稠性測定機によって各種食品のテクスチャーの測定の方法を検討してみた。

2. 加重子として先端が8mmの円板状のものと2.8mmのプランジャー形のものをを用い、鎖によって加重速度2kg/minと500g/minで加重し、これにより得られる荷重—変形曲線と、適当な分銅を用いて加重し、一定時間後除去した時に得られる時間—変形曲線より各種食品のテクスチャーの検討を試みた。

3. 本実験に使用した自作の測定器でもかなりの食品のテクスチャーを判断することが出来るが、すべての固形状食品のテクスチャーを解明するためには最大荷重2.5kg程度ではやや困難である。

食品のテクスチャーとして最も重要な硬さは、一般に行なわれているような応力—歪曲線の立上りの傾斜だけが関連するのではなく、食品の破壊強度も影響する。